

# 旭川を拠点に道北の市民活動を支える 多彩な活動で地域課題の解決に幅広く対応

◇ 先駆的な社会的起業活動からNPO  
支援へ

旭川駅から車で五分ほどの北彩都あさひかわ地区にある、明治時代の旧国鉄の工場だった二棟のレンガ造りの建物を活用した市民活動の交流施設「CoCoDe」がオープンして丸二年がたった。旭川市が歴史的建造物を改修整備して開設した市民活動交流センターである。ホールを使ったイベントや会議・研修室でのセミナーなど年間約五万

## 北海道の元気! NPO訪問

38 NPO法人 旭川NPOサポートセンター

文・加藤知美

人の利用者がいる。CoCoDeを指定管理者として管理運営しているのが「NPO法人旭川NPOサポートセンター」だ。活動歴は一〇年を超えている。民設民営の中間支援組織として、旭川をはじめとする道北地方でNPO活動の推進、市民団体相互の連携、社会的地位の向上を図る活動を展開し、地域の課題解決につながる事業に自ら乗り出してきた。

道内の中核都市で活動する中間支援組織は設立の経緯も各々異なるが、旭川NPOサポートセンターは、他都市に比べ比較的早い時期にスタートした。その原動力となったのは事務局長の森田裕子さんだ。森田さんは子育ての経験から食や農業に関心を持ち、環境問題や地域課題を解決する仕事をしたいと考えて消費生活アドバイザーの資格をとり、上川支庁（当時）消費生活相談室の相談員になった。そして、高齢者が訪問販売で高額な商品を買わされる被害が多いことに心を痛め、さりげなく見守れる方法はないかと考えたのが弁当の宅配だった。一九九六年に老人給食「花きやべつ」の活動を始め、高齢者のお宅へバランスのとれたあたたかい食事を届けるが、儲けはほとんどない。にもかかわらず、当時は宅配弁当が一般的でなかったこともあり、「高齢者を食い物にしている」と言われることさえあったが、利用者から

は大いに喜ばれた。

また、一九九九年に保育サポートセンター養成講座修了生に森田さんが呼びかけて結成した「あいあい」は、訪問しての託児やイベント開催時の保育などを行い、一〇年以上経った今も活発な活動が続いている。森田さんは、最近注目されることの多い社会的起業の先駆者なのである。

その後、森田さんは、起業による地域の課題解決を広めるために「女性の起業講座」を企画した。役所の補助金や企業の協賛金を集めて、様々な講師を呼んで実施されたこの講座の受講生は、現在、旭川NPOサポートセンターで一緒に活動したり、新たにNPOを立ち上げて活躍していたりする。その講座の講師のひとりだった北海道NPOサポートセンターの小林董信事務局長に、「これからは、起業のひとつのかたちとしてNPOが増えるから、そうしたNPOをつなぐ地域の拠点を旭川でつくったら」とすすめられことから、講座で出会った市の職員や企業人とともに設立準備会をたちあげた。「NPO法人旭川NPOサポートセンター」が誕生したのは二〇〇〇年のことである。



CoCoDeのホール棟を使って学習機会の提供を行う「おとなの学校」は毎月開催。

## ◇ 団体連携と後方支援で市民活動の充実化を後押し

旭川NPOサポートセンターは当初からNPO起業の支援に力を入れ、設立二年後に日本財団の助成をうけてコミュニティ・ビジネス講座を実施し、この頃から事務所を構えて常勤スタッフを置ける体制ができてきた。二〇〇三年には緊急雇用対策事業を旭川市から多数受託し、事業規模はさらに拡大した。

そして、設立当初から力を入れていた環境保全の活動については、京都議定書を受けて成立した地球温暖化対策推進法により地域で温暖化対策に取り進む枠組みができた際は、いち早く旭川での市民による活動を推進するために、企業や行政に呼びかけて「環境の保全と創造に関する旭川地域協議会」をたちあげ、その事務局を担った。



社会的企業人材創出のインターンシップ事業。他団体との連携事業にも取り組む。

旭川NPOサポートセンターによる市民活動支援の展開は、地域の様々なジャンルの活動と連携したり後方支援したりといった形でですすめられてきた。旭川駅から徒歩五分と交通の便の良い場所の雑居ビルに事務所を構えているが、同

じビルの中には市民活動団体が次々と生まれていった。

そのひとつ、「しろくまネット」は、シニアがお互いにパソコンの技術を高め合いながら交流を楽しむITサロンで、会員は多いときには二五〇人を超え、デジカメクラブやビデオクラブなどでもできた。

また、食や起業支援をテーマにした活動は、現在は中心市街地活性化の動きと連動してすすめられている。買物公園の「まちなか交流館」で食堂を運営し、日替わりシエフによる地場産にこだわった食材でのランチの提供を行い、二〇一一年度はその中から三名が起業に至った。

一方、子育て支援の分野では、旭川市および周辺七町から委託を受けて、保護者の急な用事の際などに子どもを預かる「上川中部こども緊急さばねっと」を実施している。この仕組みを利用することで、小さな子どもがいる母親も安心して就職活動ができるなどしており、地域の子育ての環境づくりに貢献している。

## ◇ 成果をあげる市民活動交流センター、指定管理の今後に注目

このように、旭川NPOサポートセンターでは、様々な分野の地域課題解決に精力的にチャレンジし、活動の場づくりをすすめてきた。三年目に入った旭川市市民活動交流センターCocodeの運営は、そうした市民活動の拠点として成果をあげ始めている。

設立当初からのメンバーで現在は理事長の惣伊

田敏行さんは、Cocodeの意義について、いろいろな人と出会いつながれる場となつて、様々な人的ネットワークが広がりは始めたことを実感している。親切な対応を心がけるスタッフたちの親しみやすさが好評なこともよい結果につながっているようだ。

しかしながら、市民活動支援を地域で一〇年以上積み重ねてきた経験からは、指定管理者としての事業範囲が少々窮屈なようだ。福祉、環境、子育て、文化などあらゆる分野の市民活動が地域全体に広がりを持つための拠点としたい一方で、行政側からは施設の利用を前提とした市民活動交流促進を求められている。もとより行政関係者とのネットワークも広げながら行政との連携事業や委託事業を重ねてきた実績があり、市民と行政の協働の難しさをよく知るだけに、今後のCocode指定管理業務の方向性が注目される。



旭川市内の団体・企業・学校によびかけて、毎年「キャンドルナイト」を開催。

## ◆ NPO法人旭川NPOサポートセンター

所在地 旭川市2条通8丁目 2条ビル3階

TEL 016612713383

WEB <http://www.potato.ne.jp/~asahinpo>